



## サービス・ラーニング・センター ～ 国際基督教大学の取組 ～

### □ 設立経緯

国際基督教大学では、大学の基本理念である「神と人ともに奉仕する人材の育成」のもと、1990年代半ばの献学50周年を機に「行動するリベラル・アーツ<sup>1</sup>」の中核を担うプログラムの1つとして、学長指名による「学際教育検討委員会」から、「教室内のいわゆる『座学』だけではなく、実際に体を動かして隣人に仕える活動を通じて学ぶ『サービス・ラーニング<sup>2</sup>』のプログラム」を推進するという答申が出された。この答申を受けて1999年からサービス・ラーニング関連科目を開講。さらに、2002年夏には国内外から大学関係者が参加して、大規模な「サービス・ラーニング・アジア会議」を開催。日本のみならずアジア地域でのサービス・ラーニング教育という文脈の中で、協力して推し進めることを確認した。同年10月には、全学的な取組を進める機関として、「IGU サービス・ラーニング・センター（以下、「センター）」を設立。

### □ 活動内容

サービス・ラーニングプログラムは、知識として学んだことを実際のサービス体験に活かし、実際の体験から生きた知識を学ぶことが目的。春学期（4～6月）に「サービス・ラーニング入門」及び「サービス・ラーニングの実習準備」、夏休み（7・8月）に「サービス・ラーニング実習」、秋学期（9～11月）に「サービス経験の共有と評価」という一連のカリキュラムになっており、計7単位を取得可能。

このカリキュラムの特徴として、学生が非営利機関・公的機関で最低30日以上サービス活動に従事すること、実習への教職員の引率がないこと、教員がサービス・ラーニングアドバイザーとして学生ごとに付いて活動前の助言や活動後の振り返りを行うことが挙げられるとのこと。

センターの役割は、効果的で安全なサービス・ラーニングの機会を学生に提供し、単なるボランティアで終わらないようにするため、大学生にふさわしい学びになるように手助けをすること。

サービス・ラーニング実習には、「国際サービス・ラーニング」と「コミュニティ・サービス・ラーニング」の2つがあり、年間約60名程度が参加。その3分の2程度は国際サービス・ラーニングに参加。国際サービス・ラーニングは、センターがネットワークを形成しているアジアの大学・機関を通じて、現地に学生が実際に赴いて活動。また、相手国からも年に数名程度交換で学生を受け入れている。コミュニティ・サービス・ラーニングは、学生が国内のNPO法人、NGO、自治体などの公共機関、福祉施設などに行って活動。

### □ 連携先

国際サービス・ラーニングは、センターがネットワークを形成しているアジア（インド、タイ、フィリピン、インドネシア、中国、韓国）の9つの大学・機関と連携、これらの大学等を通じて、現地の学生とともに学校、児童養護施設、農村などで活動。

- 1 文系、理系の区別なく幅広い知識を得た後に、専門性を高めることで、豊富な知識に裏打ちされた創造的な発想を可能とする教育。（出所：国際基督教大学ホームページより）
- 2 学生たちの自発的な意志に基づいて、一定期間、社会奉仕活動（サービス活動）を体験させ、これまで教室などで知識として学んできたことを実際のサービス体験に応用し、また実際の体験から生きた知識を学ぶ新しい「体験学習」プログラム。（出所：国際基督教大学資料より）



コミュニティ・サービス・ラーニングは、センターとつながりのあるアジア学院（栃木）、興望館（東京）、WWF サンゴ礁保護研究センター（沖縄）の3つのパートナー機関と連携しているほか、学生が自分の興味と関心に合わせて、国内のNPO法人や自治体などを探して自ら受入れ交渉まで行って開拓。これまでに100以上の団体で活動実績あり。

### □ 教員への影響

教員にとっては、学生の体験を通じて文化・地域・社会問題が学べること、学生の飛躍的な成長に喜びを感じられること、海外の大学関係者や地域の人とのネットワークやつながりができるといった効果があるとのこと。

### □ 学生への影響

学生にとっては、現実に基づいた問題意識を持てるようになること、他者への理解とコミュニケーション能力が向上すること、人間性が豊かになること、学問的探究心が向上すること、問題解決の成功体験が自信につながることといった効果があるとのこと。

### □ センターとして今後目指すこと

国内で実習を行う学生数が少ないので、大学が所在する三鷹市内の団体をはじめとして国内の非営利機関等と更に関係を深めて、国内で実習を行う人数も増やしていきたいと考えているとのこと。

#### （学生（男性）の声）

高校時代から国連職員になりたかったので、2年生のときに国際サービス・ラーニングの一環でフィリピンで活動しました。しかしながら、現地では、現場で活動するのはフィリピン人で、先進国のスタッフは全体運営や資金集めをしていて、自分のやりたいこととは違うと感じました。さらに、現地スタッフと話をした際、賃金は安くとも、自分の国の問題解決に携われることにやりがいを感じるという言葉聞いて、自分も日本で社会問題の解決に取り組みたいと考えるようになりました。

このため、3年生では学内のボランティアサークルに参加して、孤独感を抱える学生のために大学周辺の飲食店マップを作ったり、三鷹市市民協働センターで学生と地元の交流のためのトークサロン等を企画するなど、地域の活動に積極的に関わるようになりました。今では、観光業や引きこもり対策に興味を持つようになり、サービス・ラーニングのおかげで、外の世界に目を向けることができ良かったと思います。

## 国際基督教大学 サービス・ラーニング・センター

設立年	2002年
センター長	高松 香奈
所在地	東京都三鷹市大沢3-10-2
URL	<a href="http://web.icu.ac.jp/slc/">http://web.icu.ac.jp/slc/</a>

（2014年12月作成）

内閣府NPOホームページ：活動事例集